公立大学法人 山口県立大学 大学院
国際文化学研究科国際文化学専攻
修士課程

Graduate School of Intercultural Studies
Master's Course of Intercultural Studies

井竿　富雄　　IZAO Tomio

研究分野：政治学、政治史

キーワード：シベリア出兵、日本社会、アジアの平和

研究トピックス：

過去と現在の両方から世界を見る

研究の要旨：

スタートラインは日本政治史です。寺内正毅首相時代にスタートした「シベリア出兵」の研究から始まっています。この過程で、在外邦人が戦争に巻き込まれて引き揚げた時の経済的損失救済（日本政府に「救恤金」という見舞金を出させた）問題やら、日露戦争前シベリアで諜報工作に従事し、その後は日本人を教育勅語の精神で訓練しようとした花田仲之助率いる「報徳会」（発足時と最末期は「東亜報徳会」）のことについてやら、道草か脱線か迷走かわからないことを続けてきました。学部の授業で台湾に残る日本語に出逢い、これらの影印版を買い込んで支払いに苦慮したりもしています（自業自得）。とはいえ、私個人としては反面でそれほど脱線ではないと信じていて、いつかはこれらの方向性が統合されるだろうとぼんやり考えています。ただしそのためにはもう幾段階超えて外国語を学ぶ必要があります…。生涯かかってできるかどうかわからない問題でもあります。

歴史めいたことをやる一方で、現代政治の動向や、世界的な政治現象などについても関心はあります。折しもコロナウイルスが世界に蔓延し、私どもの生活はあっという間に変化しました。これまで潜在的に進んでいた技術革新による社会の変化が一気に襲ってきました。「防疫」を大義名分として各国は国境を閉ざし、一時的に世界は動きを止めたかに見えました。しかし反面で、各国は相互に協力し、グローバルに医療・保健・通信を保障していかなければ人類は共倒れしていくことも明らかになりつつあります。もちろんそれは単純な道ではありませんし、相当の困難が伴いますが、どのようにすれば迂遠でも達成に近づくのか、そういうことを考えてみたい方も大学院の門をたたいてみてください。

主な関連業績：

「過ぎ去ろうとしない帝国」『季論 21』48 号、2020 年 4 月、64-74 頁

「第一次世界大戦期の報徳会」『山口県立大学学術情報』13 号（大学院論集）、2020 年 3 月、1-11 頁

「寺内内閣・山口県・米騒動」井本三夫編『米騒動・大戦後デモクラシー百周年論集』Ⅱ、集広舎、2019 年 11 月、64-86 頁

教員紹介へのリンク

教員データベースへのリンク